



イムス札幌消化器中央総合病院

■札幌市西区八軒2条西1丁目1-1
☎(011) 611-1391
■診療科目 内科、消化器内科、消化器外科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病内科、腎臓内科(人工透析)、整形外科、泌尿器科、リハビリテーション科、麻酔科

※人工腎臓(血液透析)、人間ドックも受け付けている。

■診療受付時間 月～金
8:30～11:30
13:00～16:30
土
8:30～11:30
日/土曜午後
日曜・祝日
年末年始

13年4月1日に琴似ロイヤル病院から名称を一新した「イムス札幌消化器中央総合病院」。理念に掲げる「愛し愛される病院」の実現を目指す同院が最も力点を置くのが、患者の身体に負担をかけない低侵襲医療の充実。核となる消化器領域をはじめ、全ての診療科でこれを推進し、今後さらに総合病院としての機能を強化する。

低侵襲な先進的医療を 実践する総合病院

手術や検査に伴う痛みや出血といった、患者の身体への負担を可能な限り少なくすることで早期回復を目指す、というのが低侵襲医療。同院では、全ての診療科において日々低侵襲医療の拡充に注力しており、その実践としてさまざまな最先端医療技術を積極的に導入している。

消化器内科・消化器外科・内科・循環器内科・呼吸器内科・糖尿病内科・腎臓内科(人工透析)・整形外科・泌尿器科・リハビリテーション科・麻酔科と計11の診療科を備える同院。その中核を担っているのが病院名にも記されている消化器診療だが、同病院が取り組んでいる全ての診療科で最先端医療の導入に注力している。

泌尿器科で行っている内視鏡的診断治療の代表例は、腎結石や尿路結石などに対して強力なホルミウムレーザーを撃ちこみ、直接結石を粉碎するというもの。前立腺がんなどにはHIFU(強力集束超音波)治療などを積極的に取り込んでいる。

内視鏡的診断治療について

瘦化ではなく、内視鏡を使ってさまざまな部位からのアプローチによってチューブを体内のみで活用する内癒化治療を行っている。

また、胃や大腸などにおける早期がんにはESD(内視鏡的悪性腫瘍粘膜下層剥離術)治療を実践。これは、内視鏡を使って皮を剥ぐように病変を切除するというもので、これまでは早期がんであっても、腫瘍の場所が悪ければ臓器そのものの全摘出を強いられる場合もあったが、このESD治療は、先に挙げた胃がん、大腸がんに止まらず食道がんや十二指腸がん、咽頭がんなどにも対応しており、同院ではこの治療を希望して道外から患者が来院してくることも珍しくない。

消化器内科に関してはこのほかにも、国内で数少ない先進の医療技術を幾つも導入。加えて担当医の数も、丹野院長含め6人を配し、設備と人材の両面で充実した体制を整えている。

琴似ロイヤル病院、4月1日に名称変更

イムス札幌消化器中央総合病院誕生

イムス札幌消化器中央総合病院誕生



▲内視鏡室(上)に完備された最先端の内視鏡(下)



は、整形外科でも治療に活用する場合もあるという。

循環器領域においても、カテーテルなどを活用したインターベンション治療を推し進めており、患者の身体にかかる負担軽減に注力している。

このほか、全ての診療科に対応している。

最先端技術の積極導入で 消化器領域をさらに強化

同院の柱を担っている消化器診療。一般的な胃や腸の疾患はもちろんのこと、高い専門的技術を要するすい臓や胆道系の疾患に対しても万全の体制を整備し、ほぼ全ての消化器疾患に対して、患者の身体に極力負担をかけない低侵襲医療を実践している。

消化器内科の分野で低侵襲医療に大きく貢献しているのが、インターベンションを活用した内視鏡的診断治療だ。例えばすい臓がんの発症に伴う黄疸治療の場合、同病院では患者に負担を強いられる外

手術と比べ大幅に小さく、加えて比較的早期に回復できることにより短い入院期間で社会復帰できる点などが、多くの患者から支持されている。

プライバシーに配慮した 透析治療専用個室を整備

透析治療について、同院では全国でも極めて稀な個室型の透析室を33室完備しており、患者のプライバシーに細心の注意を払ったこの治療は大きな評価を得ている。

また、人工透析を行う際に必要な、動脈と静脈をつなぎ合わせるシャント(バスキュラーアクセスとも呼ぶ)のトラブル対策として、近くバスキュラーラボを設立する計画で、

これにより透析患者にとって命綱に等しいシャントのトラブルを一手に引き受ける医療環境を整備していく方針だ。核である消化器領域のさらなる強化に努めると同時に、全ての診療科のレベルも高め、病気の予防に急性期医療、がん治療など幅広い分野で包括的に低侵襲医療を実践する同院。その期待度は今後一層高まっていきそうだ。



▶全国でも数少ない個室型透析室(上)とその室内(下)